

## 第14回 茨城県移動性・安全性向上委員会 議事要旨（案）

開催日時 平成27年1月20日（火）10:00～12:00

開催場所 常陸河川国道事務所 2階 会議室 F・G

### <議事等>

- (1) 前回委員会における主な指摘事項と対応
- (2) 第3期事故危険区間の選定指標と箇所抽出について
  - 2-1.第1期・第2期事故危険区間の選定指標の考え方
  - 2-2.事故発生状況の推移
  - 2-3.第3期事故危険区間 選定指標の見直しの試行
  - 2-4.事故危険区間の選定イメージ
  - 2-5.第3期事故危険区間の選定結果
- (3) 合同現地診断について
- (4) その他（SNSの活用方法）
- (5) 今後のスケジュール



### <主な意見>

#### (1) 前回委員会における主な指摘事項と対応

**委員長** : H17交通安全要対策箇所のNo18, No19, No20については、対策実施後においても死傷事故率が依然として3ケタ台となっている。死傷事故率全国平均の100件/億台キロに減少するまでは引き続き対策を検討すべきである。

**委員長** : 追突注意の路面標示は、手前からの縦書き表示や横書き表示の方が走行車両が最初の文字で判断できることから、標準的な表示よりも注意喚起効果があるのではないかと。

**委員** : 常時タイヤの通る部分から区画線は薄くなっていくことから、横書き表示の場合常にタイヤが通る部分があり早期劣化の問題があるため、縦書き表示が標準的な表示と思われる。

**事務局** : 対策箇所によっては、手前からの縦書き表示や横書き表示の方が効果があることも考えられることから、試験的に導入するなど検討する。

**委員長** : No6大工町2丁目交差点、No26大足東交差点は対策後1年間のデータであるため、具体的な対策は検討していないが、2年間のデータで行う中間評価の際にも事故発生状況に同様な傾向がみられる場合には対策案を検討していくこと。

**委員** : No34千波海道付交差点については、対策箇所とは別の箇所で事故が発生していることが判明したので、推察結果から新たに事故が発生している箇所の対策をすぐに実施する事は可能なのか。

**事務局** : No34千波海道付交差点も1年間のデータからの速報値であるが、対策箇所とは別の箇所で事故が発生している点も踏まえ、3月開催予定の合同現地診断箇所に選定している。現地診断において意見等をお伺いし今後の対策内容に反映する。

（次頁に続く）

## (2) 第3期事故危険区間の選定指標と箇所抽出について

**委員長** : I Tの活用による選定区間は、国管理区間よりも県管理区間の管理延長が長いのに対し、国51区間と県8区間という差が出ている理由を教えてください。

**事務局** : I Tの活用による選定は、民間プローブデータと、Webヒヤリハットデータから選定している。Webヒヤリハットデータは国県管理区間において行っているが、民間プローブデータの急減速データは国道6号、国道50号、国道51号のデータで行っているため、国管理区間の選定区間が多くなっている。

**委員** : 各地域で住宅地などの生活道路のヒヤリハットマップを作成しているが、事故対策立案に取り入れられないか。特に高齢者の事故が多いという事を踏まえると、今後は住宅地などの生活道路の事故対策についても検討できないか。

**委員長** : 生活道路の交通事故が増加している事を踏まえ、幹線道路だけではなく住宅地などの生活道路の事故対策についても議論を開始する時期にあるのではないかと。

**事務局** : 住宅地などの生活道路の事故対策については、ヒヤリハットマップの活用など地域住民の声をどのように取り組み対策していくか今後の方針を含め調整し検討する。

## (3) 合同現地診断について

**事務局** : 3月実施予定。日程スケジュールは後日調整する。

## (4) その他 (SNS の活用方法)

**委員長** : 当初の目的は、意見を募集する手段としてのFacebookやTwitterの活用ではなく、委員会の取り組みや対策内容などの情報をより多くの県民の人々に発信するツールとして活用することであるため、今後Twitterによる情報提供を行うこと。ただし、より多くの人々に発信する上では、Facebookの方がTwitterよりも利用者数が多いこともあり引き続きFacebookの活用について調整・検討すること。

また、SNSを活用し情報提供を行っても定期的に配信しないと忘れられてしまうため、1ヶ月に1、2回程度で定期的に更新する仕組みを作り運用すること。

**事務局** : 引き続きFacebookの活用について検討する。

## (5) 今後のスケジュール

**事務局** : 次回安全性委員会を5月頃に実施する予定。

**委員長** : 様々な場所で道路(橋梁など)の安全性やメンテナンスについて指摘されていることから、本委員会が安全性委員会という名称であることもあり、今後道路の安全性やメンテナンスについて情報提供してほしい。

**事務局** : 検討する。

以上

